

— 社会保障・社会福祉 I



社会福祉の歴史

2025年5月1日（木）13時～ 担当：宇田

小樽市立高等看護学院

社会福祉の歴史

近代社会福祉の源流はイギリスにあり

- ・ イギリスで世界初の産業革命
- ・ 大英帝国は世界の4分の1を支配していた
- ・ 様々な分野でイギリスを端に世界に広がる

○一方で...

- ・ ???
- ・ ???
- ・ ???



社会福祉は弱者の
側にたって社会を
捉える眼が大切

エリザベス救貧法

エンクロージャー（羊が人を食う by トマス・モア）

- ・ 農民が羊に追い出された歴史的出来事
 - ・ 羊毛の需要（工場制手工業の時代）
 - ・ 領主が小作人を暴力的に追い出す
- ロンドンに行く（仕事や救済を求めて）
- ★スラム街は都市部に起こる（いつの時代も）



- ロンドンの人口が3倍（追い出された浮浪人）
- 浮浪人等の問題を「社会で」何とかしなければとなる

エリザベス救貧法

エリザベス救貧法

- ・近代社会福祉制度のはじまり
 - ・貧困者層を3つに分ける
- ①労働不能な貧民
 - ②労働可能な貧民
 - ③貧困児童

さらに労働能力のある貧民を

- A：労働意欲のある者 → **ワークハウス（労役所）**
- B：労働意欲のない者 → **矯正院**



貧民を労働力にする考え方

救貧税による財源

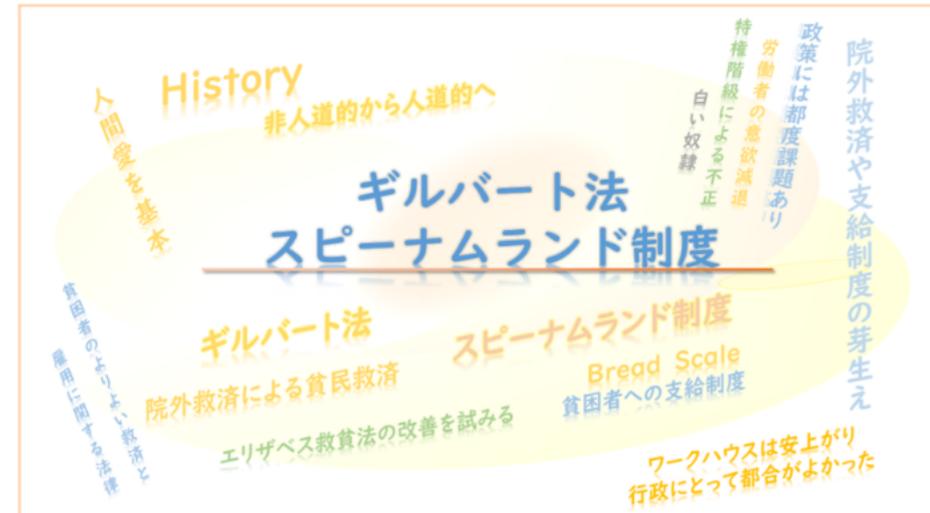
※最初は教区ごと

ギルバート法とスピーナムランド制度

非人道的から人道的へ

- ・ 院内救済（ワークハウス）から**院外救済**
- ★労働可能なものは就労の有無で区別
- ★低賃金の者には救貧税による補助
- スピーナムランド制度（BredScale）
- ★職のない者には雇用の斡旋

貧困者は悪質な環境（ワークハウス※監獄）で
奴隷のように働かされる → そうではない施策（人間愛を基本）



新救貧法

資本家有利の法律・ワークハウス復活

- ・資本家らが、労働者の意欲減退の原因を貧困に対する支援とした考え方をとる

※ナポレオン戦争による不況が背景

★ワークハウスの復活

(バスティーユと言われるほど劣悪な環境)

★劣等処遇の原則

★全国統一へ (地方主義から中央統制)

※救貧税が全国一律



救済の申請→ワークハウス強制
救済の申請はとてもしない
我慢して貧困でも生活

ロッチデール

生協のはじまり（小さな商店から世界中へ）

仕事も食べ物もない自分たちの生活向上のための集会を開く

※当時はありえない価格で不正に販売が慢性

→週2ペンス積み立てし小さなお店を開く

★適正な価格で消費者へ商品を届ける組合

「ロッチデール公正先駆者組合」

（略）世界中へ広がる

→日本でも賀川豊彦「生協の父・ノーベル平和賞候補」



1895年にはICA（国際協同組合同盟）が設立

慈善組織協会

様々な慈善団体による活動（民間が中心）

当時様々な慈善団体がそれぞれ活動

- ・ 生活困窮者救済協会（S.R.D）
救済基金を募って訪問型で直接救済支援
ボランティア訪問員（無給）
- ・ 首都訪問救済協会
- ・ 地方出身者友の会
- ・ 石炭・パンのクラブ、スープキッチン
- ・ 訪問と聖書配布協会
- ・ ホスピタル、診療所なども強力な慈善機関



慈善組織協会

ケースワークの起源

当時バラバラに活動していた慈善団体による救済の重複を防ぐことや団体間の連絡調整を図ることを目的に設立

★選別主義（救済に値する貧民のみを救済）

★貧困の原因は個人の問題とする

★目的：富裕階級が貧困階級の生活実態について理解を深めることで、富裕・貧困両階級の社会的距離の拡大を解消



慈善組織協会

イギリスから始まりアメリカへ渡る

イギリスで展開された慈善組織協会を手本に
アメリカでも慈善組織協会が設立

★無給ではなく有給の訪問員（友愛訪問）

★ケースワークの方法や訓練



ケースワークの母「メアリーリッチモンド」も慈善組織協会の事務
職員で働いていた → やがてケースワークを体系化する

セツルメント

イーストエンド（東ロンドン）で共同生活

人格的接触を通じた貧困者の救済

大学生に向けて（オックスフォード大学など）

ホワイトチャペル地区に住むことを呼びかけ

With People ~ 人々と共に（Toではなく）

世界初のセツルメント「トインビーホール」

教育やレクリエーション、大学公開講座、児童クラブ、余暇指導

学生討論会、芸術クラブ、旅行クラブ、無料法律相談などなど

貧困の原因を社会の問題とする



ブースとラウントリーの貧困調査

ロンドン調査

汽船会社の実業家ブースによる貧困調査

★ロンドン市民約420万人を調査

★私財と時間を費やして調査

★貧困線の導入

★貧困地図による世帯を色分けして分析

ロンドン市民3分の1以下が貧困線以下の生活水準で暮らしている

貧困の原因は飲酒や怠惰ではなく、雇用や環境といった社会経済的要因が圧倒的に多いことを明らかにする



ブースとラウントリーの貧困調査

ヨーク市調査

チョコレート会社の実業者（キットカット）
ラウントリーによる貧困調査（私財）

★ブースの影響を受けて地方都市で貧困調査

★マーケットバスケット方式

★第一次貧困（肉体的能率維持困難）

★第二次貧困（肉体的能率維持ギリギリ・他のものに消費できない）

★ライフサイクル論（一生のうち3回は貧困線以下になる周期関係）

★貧困の原因は社会にあり（雇用や環境）



ベバリッジ報告

世界初の福祉国家

社会保険、失業保険、労働関連など
19世紀には保険や社会立法が登場してきます

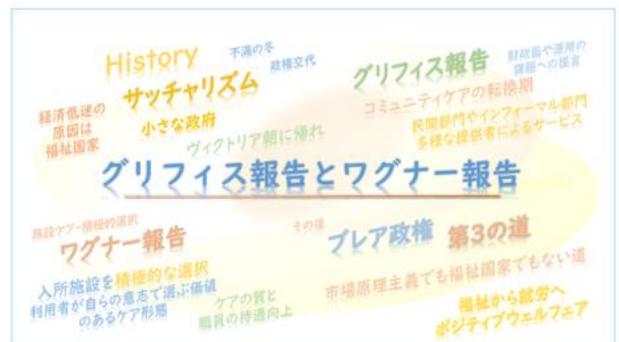
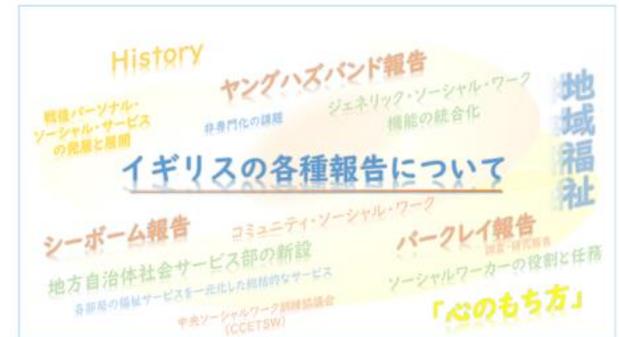
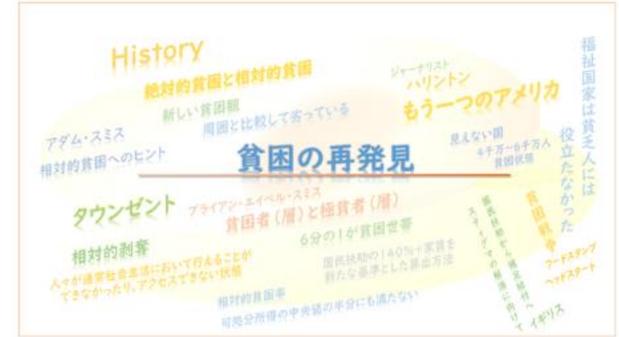
第二次世界大戦時には社会保障制度が検討
戦時中の戦意高揚や戦後の社会を立て直す
ための社会保障制度実現に向けて、報告書
が出版され、人々の手に渡る

イギリスは世界最初の福祉国家（ゆりかごから墓場まで）



以降

- 貧困の再発見
「絶対的貧困から相対的貧困」
- パーソナルソーシャルサービス
「コミュニティを基盤」
- サッチャリズム（小さな政府）
- 福祉から就労へ



イギリスの歴史には社会福祉の源流が込められている

History

貧困や浮浪を社会で対策しようとした
背景 エンクロージャー

エリザベス救貧法について

貧困者を分類
労働能力のない者
貧民院での保護
労働能力のある者
ワークハウス
労働

近代社会福祉制度のはじまり
羊が人を食う
16世紀
貧民院の設立

労働能力のない者
貧民院での保護
労働能力のある者
ワークハウス
労働

働かざるものは食うべからず
棄たして置かれたのか?

History

28人の職工が小さなお病をはじめた
ロッヂデール公正先取者組合
道2ペンスの積み立て

ロッヂデールについて

ロッヂデールの原則
明確な実行目的を掲げる
先駆的な仕組み
良心的
自治的

世界中に広がる
ジョージ・ヤコブ・ホリヨーク
国際協同組合 ICA
熱心活動
現代の生協

協同組合のはじまり

History

雇用問題
貧困地帯
ロンドン

ブースとラウントリーの貧困調査

ラウントリー
ヨーク市(地方)
チェコレスト工場
第1次調査
第2次調査
マーケットバスケット方式

貧困の原因
個人ではなく社会の問題

社会踏査

History

職能・パーソナル・ソーシャル・サービスの統合と展開
非専門化の課題
ジェネリック・ソーシャル・ワーク
機能の統合化

イギリスの各種報告について

ヤングハズバンド報告
シールボム報告
パークレイ報告

地域福祉

History

非人道的から人道的へ

ギルバート法 スピーナムランド制度

ギルバート法
院外救済による貧民救済
エリザベス救貧法の改善を試みる

スピーナムランド制度
Bread Scale
貧困者への支給制度
ワークハウスは安上がり
行政にとって都合がよかった

院外救済や支給制度の芽生え
政治には制度課題あり
労働者による不正
白い旗

History

慈善の量産防止
連絡や調整の役割
アウトリーチ
活動

慈善組織協会について

イギリスからアメリカへ
有給職員の設定
方法や訓練の関与
友愛訪問
ニューヨーロッパの講習会

ケースワークの源流
まだ社会ではなく個人

メアリー・リッチモンド

History

ゆりかごから墓場まで
ナショナルミニマム
最低賃金(1997年)

ベヴァリッジ報告について

5つの巨人
貧乏(want)
無知(ignorance)
疾病(disease)
不潔(squalor)
怠惰(idleness)

戦後の社会保障制度体制

社会保障制度

History

経済低迷の原因は福祉国家
小さな政府
ウィクトリア朝に爆発

グリフィス報告とワグナー報告

ワグナー報告
人施設を積極的な選択
利用者が自らの意思で選ぶ環境
のあるケア形態

グリフィス報告
コミュニティケアの転換期
民間部門やインフォーマル部門
多様な提供者によるサービス

ブレイク報告
ソーシャルワーカーの役割と任務
「心のもち方」

History

歴史を学ぶとは、歴史を繰り返さないこと

新救貧法について

劣等処遇の原則
最下層の生活水準より
劣っている必要がある
外見も
差別も

全国統一の原則
地方主義→中央統制
地方自治の縮小

ワークハウスの復活
院内救済
非人道的
救済抑制効果はなかった

資本家有利の法律
個人の問題

History

バーネット夫妻
オックスフォード
大学での実践

セツルメント運動について

世界へ広がる
ナイバーフットギルト
アフリカ NY コロ
岡山博愛会
A アダムス

With People
~人々と共に~
貧困地区に住み込んだ社会改良

トインビーホール

History

絶対的貧困と相対的貧困
新しい貧困
周囲と比較して劣っている

貧困の再発見

ダウゼント
相対的貧困
人々が国家制度を批判しているにもかかわらず
十分な基準とした貧困基準

もう一つのアメリカ
ジェナート・ハリントン
見えない国
6千万~8千万人
貧民院

貧困(層)と極貧者(層)
6分の1が貧困層
6分の1が極貧層
国民総所得の15%以下に固定
膨大な基準とした貧困基準

福祉国家は貧乏人とは
設立できなかった
貧民院